

2010年9月8日

バンクオブアメリカ・メリルリンチ ジャパンコンファレンス 2010
におけるプレゼンテーション
「投資家からの最近の主なご質問」
株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役社長 北山 禎介

< 発言要旨 >

=====

(表紙)

三井住友フィナンシャルグループの北山です。

本日は、ご多忙のところお集まりいただき、誠に有難うございます。

また、本コンファレンスを主催されているメリルリンチ日本証券の皆さまにも感謝申し上げます。

さて、本日のプレゼンテーションは、1ページにリストをお示ししておりますが、投資家の皆さまから最近ご質問の多い主な事項についてご説明する、というスタイルで進めさせていただきたいと思っております。

それでは、3ページにお進みください。

(P. 3)

わが国の経済状況は、回復局面は続いておりますが、輸出や生産統計の回復ペースの鈍化や、耐久消費財の販売鈍化にみられる政策効果の衰えなど、昨年春以降の牽引役の勢いに翳りが出ております。また、8月に米国FRBが景気判断の大幅な下方修正と事実上の追加金融緩和に踏み切ったことから、足許では急速に円高・株安が進んでおり、期初に比べても不確実性・不透明性が増しております。

こうしたことから、目先、景気の減速傾向は一段と明確化してくる可能性があります。10年度の名目GDP成長率は、当社の期初業績予想の前提であるゼロ近傍から大きな乖離はないものとみておりますし、倒産件数は前年比では減少が続いており、クレジットコストも大きく増えることはないものとみております。なお、内部モデルの試算では、名目GDP成長率が▲1%低下した場合、クレジットコストは600～700億円程度増えるものと見込んでおります。

次のページにお進みください。

(P. 4)

金融市場についてですが、国内では、日銀が8月末には追加的な金融緩和を決定するなど、当面は短期金利上昇が見込まれる環境ではありません。長期金利は、中期的には低下余地を模索する展開になるとみておりますが、足許ではボラティリティが高くなっており、当面は神経質な動きが予想されます。また米国では、景気減速とデフレ懸念があるなか、一段の金融緩和期待から、金利低下基調が継続するものとみております。

なお、左下には為替レートの、右下には日経平均株価の推移をお示ししておりますが、円高・株安の当社グループの業績に対するインパクトは、10円の円高で、SMBCの業務純益で▲70億円の減益、保有株式ポートフォリオの含み損益がゼロとなるのは日経平均株価で8,000円台前半と試算しており、現在の水準では影響は限定的です。

それでは次に、当社グループの今年度第1四半期業績の概況についてご説明いたします。

6ページにお進みください。

(P. 6)

今年度第1四半期のSMFG連結四半期純利益は2,118億円と、5月公表の上期業績予想値を上回り、通期予想比でも約60%の進捗となりました。

これは、三井住友銀行において、厳しい事業環境下、マーケティング部門は計画通りの進捗を示す一方、市場営業部門において、金利低下局面を的確に捉えて債券売却益を計上し、業務純益は前年同期比では245億円の増益となったこと、加えて、クレジットコストも減少したこと、グループ会社においても、日興コーディアル証券の貢献や、昨年度赤字であったセディナの黒字化、連結子会社の大宗でクレジットコストの減少を主因に利益が改善したこと、等によるものです。

一方で、今年度の業績予想につきましては、現時点では修正を行っておりませんが、業績予想に織り込んでいなかった業績悪化要因が新たに発生している訳ではございません。

7ページにお進みください。

(P. 7)

SMBC単体の今年度のクレジットコストは、期初に名目GDP成長率ゼロ近傍との前提で、2,200億円と予想しております。一方、第1四半期のクレジットコストは108億円と、年間業績予想対比では5%の進捗にとどまっておりますが、これは、取引先企業に対するきめ細かい対応を引き続き行っていることに加えて、従来引当を計上していた先でコストの戻りが生じたこと、為替相場が期初想定レートよりも円高になったため、外貨建債権に関するコストが小さくなったこと、等によるものです。

8ページにお進みください。

(P. 8)

SMBC 単体の第 1 四半期の国債等債券損益は 752 億円のプラスとなりました。これは、欧米を中心に金利低下局面を捉えたオペレーションを行ったことによるものです。今年度に入って以降、グローバルな金利低下を想定し、ある程度リスク量を増やしてまいりましたが、足許では、金利のボラティリティが相応に高くなっており、当面は神経質な動きが予想されるため、市場動向をよくみながら機動的な運営を行ってまいります。なお、6 月末の時点で債券評価益は約 1,180 億円となっております。

それでは次からは、1 月の増資時などにご説明した、成長事業についてご説明してまいります。

まずは、海外戦略です。10 ページにお進みください。

(P. 10)

当社グループでは、高い経済成長を続けるアジアを始め、海外ビジネスの比率を大きく高めていく必要があると考えております。具体的には、SMBC の国際部門と主要現法を合わせた業務純益のマーケティング部門に占める割合を、09 年度の 20% の水準から、中期的に 30% 程度にまで引き上げてまいります。

海外貸出金につきましては、右上にお示しのとおり、金融危機以降慎重な運営を行ってきたため、全体では減少しておりますが、そうした中でもアジアにおける貸出金残高は堅調に推移していることがご覧いただけるかと思えます。また、左下のグラフにお示ししておりますとおり、海外貸出のスプレッドについても、引き続き良好な水準を維持しております。今後も、日系企業に加えて、成長著しいアジアの非日系大手企業ともリレーションシップを強化し、貸出増に繋げていきたい考えです。

11 ページにお進みください。

(P. 11)

11 ページ、12 ページでは、当社のアジアにおけるアプローチをご説明いたします。

アジア域内の FTA（自由貿易協定）や EPA（経済連携協定）の締結が進むなか、生産工程が国を跨ぐ生産分業体制が拡大しております。当社グループとしましては、こうして生まれる新たなマネーフローを、お客さまから高いご評価をいただいている、国際 CMS（キャッシュ・マネジメント・サービス）の提供によって捕捉し、ビジネスに繋げてまいります。

12 ページにお進みください。

(P. 12)

アジアでは、今後 10 年間で約 8 兆ドルのインフラ需要が見込まれており、わが国では官民一体となってこの需要を取り込もうと努めております。当社グループとしましても、業界トップクラスのプロジェクトファイナンス組成力を武器に、グローバルにインフラ需要をとらまえてまいります。

13 ページにお進みください。

(P. 13)

アジアにおける拠点展開です。当社グループでは、マーケットの特性に応じた拠点展開を通じて、多様化するお客さまのニーズに機動的に対応しつつ、効率性も実現しております。アジアにおきましては、今後も独自のネットワーク拡充に加えて、各国の地場銀行との出資・提携を通じて、特色ある商品・サービスを提供してまいります。

なお、先般、当社グループが北米の地銀買収を検討しているとの一部報道がありました。海外市場という観点では、ここまでご説明したアジアに加え、北米市場は、市場規模やビジネス慣習上の親和性などからも有力な市場とみておりますが、地銀等の買収につきましては、部門で行っているシミュレーションについて断片的に報じられたものであり、具体的な案件はございません。

それでは次に、もう一つの成長事業である証券業務における戦略についてご説明いたします。15 ページにお進みください。

(P. 15)

ご承知の通り、当社グループでは、昨年 10 月に日興コーディアル証券を完全子会社化いたしました。SMBC と日興コーディアル証券との連携、日興コーディアル証券のリテールビジネスとホールセールビジネスの連携は順調に進んでおります。

日興コーディアル証券の第 1 四半期の経常利益は、大手証券会社の中でもトップの水準を確保できました。これは、連携効果に加えて、投信販売が好調であったことが主な理由です。また、本年 4 月に国債プライマリーディーラーとして指定を受ける等、債券トレーディング機能が拡充し、トップクラスの事業債引受シェアを確保するなど、着実な成果もあげております。

16 ページにお進みください。

(P. 16)

日興コーディアル証券では、本年3月に2012年度までの中期経営計画を発表し、「本邦 No. 1 であり、グローバルにも競争力を有する、質量ともに充実した総合証券会社」を展望した施策を進めております。

スライドの左側には主な施策、右側にはこれまでの進捗をお示ししております。

例えば、リテールビジネスでは、10年4月にSMBCと個人のお客さま向け金融商品仲介業務を開始いたしましたほか、10年6月には、SMBC、日興コーディアル証券、バークレイズ・バンク・ピーエルシーの3社では、日本におけるプライベート・バンキング業務の協働を開始しております。ホールセールビジネスでは、事業債引受額ではシェア16%と3位に付けておりますほか、海外拠点ネットワークにつきましても、ロンドン、ニューヨーク、香港において、今年度中に、それぞれ現地法人で証券業務を始める計画です。

当社グループといたしましては、お客さまへの対応力をより一層高めるためにも、ホールセール機能の拡充が必要と考えております。SMBCとの連携を一層強化することは勿論、今後も人材・資金等の資源を投入しつつ、カスタマー・オリエンテッドな新たな銀・証融合ビジネスモデルを構築し、グループとしての付加価値を高めてまいります。

それでは次に、コンシューマーファイナンス事業の方針についてご説明いたします。18ページにお進みください。

(P. 18)

18ページ、19ページには、当社グループのコンシューマーファイナンス事業及びクレジットカード事業の体制等についてお示ししており、基本的な戦略は変わっておりません。

コンシューマーファイナンス事業につきましては、過払利息の返還請求件数は昨年度対比では減少しておりますが、総量規制の影響もあり、当面は現状の厳しい環境が続くとみております。しかしながら、個人のお客さまの健全な借入ニーズは確実に存在し、中長期的には安定した収益水準が見込まれる事業と考えており、当社グループとしましては、リテールビジネスのラインナップの一つとして引き続き注力してまいります。

なお、厳しい環境に対応するべく、プロミスグループでは、事業構造の改革と、これに伴う抜本的なコスト削減による、強靱な経営体質の構築に注力しております。

クレジットカード事業につきましては、当社グループでは、本年5月にセディナを連結子会社化いたしました。今後、三井住友カードとセディナのシステム一体化によるスケールメリットとトップラインシナジーの追求や、セディナの経営構造改革のスピードアップを図り、グループとしての収益を拡大してまいります。

それでは次に、当社の資本政策及び、流動性規制への対応についてご説明いたします。21ページにお進みください。

(P. 21)

当社グループでは、昨年度、二度の普通株増資等を通じて、資本基盤を質・量ともに強化いたしました。その結果、10年6月末時点の連結 Tier I 比率は 11.56% となっております。新たな規制で求められる数値基準や導入時期は、近々、明らかになると報じられておりますが、現在の資本の量は、当社グループが抱えるビジネスリスクに要するエコノミックキャピタル対比十分な水準であり、また、リスクアセットも引き続きコントロールしてまいりますので、自己資本規制強化対応の観点から更なる普通株増資を行うことは想定しておりません。引き続き、最も質の高い資本である利益剰余金を積み上げ、資本の質・量の拡充を図りつつ、株主の皆さまへの還元も継続してまいります。

22 ページにお進みください。

(P. 22)

SMBC では、政策保有株式の連結 Tier I に対する比率は、10年6月末時点で 31% です。当社グループでは、13年3月末までにこの比率を 25% 程度にまで低減、残高では △3,000 億円程度削減するべく取り組んでおります。第 1 四半期の売却実績は、株価が弱含みで推移したこともあり、約 10 億円にとどまりましたが、株式保有先の開示や国際会計基準導入の影響により、お客さまから持ち合い解消の申し出も出てきており、従来よりも売却の了解は得られやすい環境になっております。引き続き了解をいただいてまいりたいと考えております。

23 ページにお進みください。

(P. 23)

安定的な国内預金基盤を背景に、当社グループの預貸率は 10年6月末時点で 72% と、海外主要行と比較して余裕のある水準となっております。一方で、海外で積極的にアセットを投入するためには、安定的な預金の獲得や中長期的なファンディングが必要と考えております。本年 7 月に、ドル建のシニア債を、3 年債と 5 年債でそれぞれ 10 億ドルずつ発行いたしました。海外ビジネスの拡大も踏まえ、今後も外貨調達手段の多様化を促進してまいります。

24 ページにお進みください。

(P. 24)

最後のスライドです。

当社グループでは、本年度の経営方針を、「Forward looking～変化の先を読み、新たな規制・競争環境においても着実な成長を実現するビジネスモデルへの転換を図る」、「リスクリターン、コストリターンを重視し、アセットクオリティの改善と経費・クレジットコストのコントロールを徹底する」といたしております。

当社グループといたしましては、「中期的には連結 ROE10%程度を目指し」、「連結 Tier I 比率で 10%程度以上を継続的に確保する」という 2 つの財務目標の達成に向けて、新たな規制環境に適切に対応しつつ、当社グループの特徴の一つであります、効率性の高さに引続き拘り、「収益、資本、リスクアセット／成長投資のバランスよい成長サイクルの実現」を粘り強く追求してまいります。

ご静聴有難うございました。それでは、皆さまのご質問やご意見を賜りたいと思います。

以 上